宇部市文化振興まちづくり審議会　会議概要

日　時：令和元年(2019年)7月5日（金）15：00～16：45
場　所：宇部市文化会館　２階　第２研修室
出席者：委員10人
事務局：庄賀観光・ＣＰ部長、濱田観光・ＣＰ部参事
安光文化・スポーツ振興課長
荒武文化・スポーツ振興課副課長
高下文化・スポーツ振興課副主幹
酒井文化振興係長　中島主任

１　議事

（１）「文化振興ビジョン」の進捗状況について

文化振興ビジョンに規定された、各種事業の進捗状況について、事務局より説明。

（会長）　事務局から事業についての説明があった。
事前配布されている資料なので、感想や意見があればお願いしたい。
なお、今年は、重点アクションの「まちじゅうアートフェスタ」が、開催される年であり、今回で３回目となる。
これまでの事業を振り返り、中身も少しずつ改善していってもらいたいと思う。
なお、毎年言っていることだが、文化振興ビジョンの目標達成状況は、参考程度に留め、文化芸術により、市民や子どもたちが、楽しく、気分良く、少しでも幸せな気持ちになれば良いと思うし、それが大切だ。
さらに、アート作品を見て、自分や社会のことについても、考える機会になれば良いと考えている。

（２）　ＵＢＥアートフェスタ２０１９（ＵＢＥビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ）について

（委員）　今年度は、「ＵＢＥアートフェス２０１９」との愛称がついたのか。

（事務局）　「ＵＢＥビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」の実行委員会で議論され、名称をもっと短くわかりやすいようにとのことで、「ＵＢＥアートフェスタ２０１９」と愛称が設定された。
　あくまでも愛称で、正式名称は「ＵＢＥビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」としている。

（委員）　これまで、「まちじゅうアートフェスタ」が「まちなかアートフェスタ」と混同されることもあったし、愛称とはいえ、すっきりしたような感じになった。

（委員）　ＵＢＥビエンナーレを残し、例えばＵＢＥビエンナーレ（現代日本彫刻展）、ＵＢＥビエンナーレ（芸術祭部門）などして、歴史と伝統のあるビエンナーレを愛称に残すのも良かったと思う。

（３）　創造都市ネットワーク日本「現代芸術の国際展部会 in 宇部」について

「現代芸術の国際展部会 in 宇部」の説明を、事務局から行う。

（委員）　宇部で行われることになった経緯を教えてもらいたい。
せっかく宇部で開催されるので、ビエンナーレのＰＲをしっかりしていただきたい。

（事務局）　創造都市ネットワーク日本に宇部市も加盟しており、今回の「現代芸術の国際展部会」は、ＵＢＥビエンナーレの開催年でもあり、宇部市が開催地として誘致したものである。
　２日間にかけて開催され、基調講演や分科会、また、渡辺翁記

念会館の視察、２日目には、ＵＢＥビエンナーレ等の現地視察を予定している。

全国から、文化芸術に関わる自治体職員やアーティストが２００名程度集まると予想されるので、ビエンナーレも含め、宇部市の取組を是非ＰＲしていきたい。

（会長）　「まちじゅうアートフェスタ」改め「ＵＢＥアートフェスタ」は、３回目の開催になり、更に一層、様々な地区で様々な文化・芸術活動が行われることに期待したい。

何事も、定着するまでが大変である。

十年単位で考えて、継続してもらうことが大事だろう。

私もできるだけ各イベントに行ってみようと思う。

（委員）　昨年も話したが、現代芸術の国際展部会が宇部で開催されるのは、宇部をＰＲする大きなチャンス。

ビエンナーレの知名度を高め、全国からアーティストや観光客が、全国から集まるようになれば良いと思う。

（会長）　現代芸術の国際展部会には、アーティストや自治体の関係者だけでなく、一般の人も多数参加できると良い。

特に基調講演にも参加してもらい、また分科会については、地元の市民ならではの本音の意見などを話してもらったらどうか。

文化芸術の専門家だけが集まって、専門的な議論をすることも良いが、元々、宇部の街は、社会問題を解決するために、「緑」「花」「彫刻」などの事業を進めてきた経緯があるので、可能なら、それに関わってきた人に話をしてもらうことが良いだろうが、年齢的にも難しいだろうか。

（委員）　２０２１年の市制施行１００周年なので、それにつながるように文化事業を準備してもらいたい。

国際展部会も２０２１年ならちょうど良かったが、同様の部会をあるいは、彫刻の全国大会などが開催されればよいだろう。

（４）　その他

（委員）　今、全国的に、高齢化社会・若者の人口流出が深刻な問題となっている。

昨年も話したが、高齢者と言われる年代が多くを占めるようになると必然的に彼らに活動をしてもらって地域の元気を担ってもらうしかない。

特に、宇部市芸術祭などは、高齢者の出品・参加がほとんどとなっている。

無理に、若年層の参加を求めなくても、これから高齢者がどんどん増えていくことから、自然に少しずつ活動を行ってくれる層が増えていくのではないかと思う。

それで、自分の趣味を自分のためにやってもらえばよい。そのうちに、それが、次世代や子どもたちに、自分の体験や物語などを伝えようというようになってくると思う。

また、社会包摂という考え方は、これから非常に大切になってくると思う。

現代の日本においても、貧困の問題や家庭環境の問題などで、その日その日を生活するのがやっとという世代が増えている。

ひとり親家庭や家計を支える父母が非正規労働者など、日々の生活に追われて、音楽会や美術展に子どもを連れていく余裕は少ないだろう。

実際に私の知人にもそのような環境で子育てをしているものが複数いるので良くわかる。

（委員）　先日、久々にときわ公園の彫刻を散歩がてら娘・孫と見にいった。

やはり、子どもが参加できるようになると、親や祖父母も参加することができる。

参加人数が全てではないと思うが、核家族化が進むなか、三世代が文化を通じて触れあうことで、その後の会話などで、文化に関することが出てきて、また何かあれば参加してみよう、

興味があることなら自分たちでも取り組んでみようという気持ちになるのではないかと思える。

（委員）　今、日本でも経済的格差が広がっていると言われている。

学校でも、朝食を食べてこない。小学校低学年からスマホを持たされて、親もスマホの画面に見入って親子の会話がない。

おそらく、経済的格差が子どもたちの生活態度に悪影響を与え、文化的な格差にも大きくつながっていると思われる。

学校でも一生懸命に、勉強を教えているが、しつけや生活態度といったことにも引き続き力を入れなくてはならない。

様々な親を持つ子どもたちは、もちろん親の影響が大きいが、基本的な生活態度、学力を身につけてもらいたいと思っている。

先ほどの社会包摂という話があったが、どんな境遇にある子どもスタートラインは一緒としたい。

実際にはなかなか難しいかも知れないが、文化芸術に関しては、日常触れる機会を均等にして、特に興味を持った子どもや才能・努力を惜しまない子どもには、社会的に支援できる制度が必要になると思う。

文化を次世代の子どもたちに文化・芸術の素晴らしさ、楽しさを体験してもらい、生きる糧や力としてほしい。

（委員）　世界一の歴史を誇るＵＢＥビエンナーレを、今後も、改革を続け、世界一のレベルを保ってもらいたい。

特に、秋の「現代芸術の国際展部会」においては、全国の自治体関係者やアーティストなどに、大いにビエンナーレをＰＲしてもらいたい。

なにしろ、地域社会の問題を文化・芸術で解決しようとする先進事例であり、単なる彫刻展ではない。

そのあたりを良く訴えてもらいたい。

私自身も参加できるのなら是非参加して、全国の人に宇部の文化・芸術の取り組みを話したいし、他の地区の良いところも聞いて参考にしてみたい。

国際展部会には大いに期待している。

（委員）　ＵＢＥビエンナーレは、元々「現代日本彫刻展」であった。先ほども、話があったが、ＵＢＥビエンナーレも彫刻部門では世界的になり、アーティスト・イン・レジデンスや公募部門も取り入れるなど、より進化していると思う。

ＵＢＥビエンナーレも彫刻に限らず、ＵＢＥビエンナーレ（彫刻部門）、（芸術祭部門）、（うべの里部門）、（まちなかアート部門）など、ＵＢＥアートフェスタより、より親しみのある、ビエンナーレという文言を活かしていけば面白いと思う。

もちろん、２年に１回のビエンナーレという意味にこだわらず、宇部市芸術祭などは、毎年開催すれば良い。

（会長）　時間になりましたので本日はこれで終わりたいと思う。

ＵＢＥアートフェスタという愛称をつけることで、彫刻から、何気ない日常の文化とのふれあいやインスタレーションやメディアアートなどの一種の先鋭的なアートも含め、少しずつアートの概念を広げていけたらよい。

特に、アートが日常生活の中にあることが大事である。

アートは、特別なものでなく、我々の普段の生活の中にあってこそ、生活を豊かにしていくものだと思う。